

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国 語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 8組

教科担当者：（1、2、3、4組：酒井）（7組：高井）（5、6、8組：山田）

使用教科書：（「現代の国語」143筑摩現国712）

教科 国語 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】a	【思考力、判断力、表現力等】b	【学びに向かう力、人間性等】c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	単元 第1章 問うこと、語ること 第2章 評論文への招待 【知識及び技能】 言葉の特徴や使い方について理解し、使うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に応じて話題を決め、収集した情報を整理して、伝え合う内容を検討することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心を持ち、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	・指導事項 問いかける力を伸ばす。 ・教材 第1章「境目」 第2章「ことばとは何か」等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「境目」という言葉やことばについて書かれた本教材を通じて、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している、a ・各教材を通じて、自分の主張を行う前に、主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。a ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。b ・評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、用紙や要点を把握することができる。b ・教材の内容、他者との関係、「ことばとは何か」に関心を持ち、ほかの人の発表を注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。c	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	単元 第2章 評論文への招待 第5章 「話し合い」から「議論」へ 第6章「根拠」から「主張」へ 第7章 伝えること、受け止めること 【知識及び技能】 主張したり説得したりすることばについて特徴や使い方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 主張する際の論拠や、情報の妥当性、信頼性の吟味のしかたについて理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心を持ち、ものの見方、考え方を深めようとする。	・指導事項 情報を正確に読み取る。 説得することばを身につける。 隠された情報を読み解く。 発信する力、受信する力を伸ばす ・教材 第2章「デジタル社会」 第6章「魔術化する科学技術」 第5章「誰かの靴を履いてみる ということ」等 第7章 実践 「ビブリオバトルに挑戦しよう」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・話し合いや発表の際に、話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、経緯と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。a ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効果について理解することができる。a ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。b ・自分の主張を行う際に、主張と論拠など情報と情報との関係や、情報の妥当性、信頼性の吟味のしかたについて理解できている。b ・教材の内容に関心と親しみをもち、本教材の学習を通してものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。c	○	○	○	14
	定期考査						○	○		1

[illegible]

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 国 語 科目 言語文化

教科：国 語 科目：言語文化 単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1、2、3 組：山田）（4、5 組：高井）（6、7、8 組：酒井）

使用教科書：（「言語文化」143筑摩言文712 ）

教科 国 語 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化への理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】a	【思考力、判断力、表現力等】b	【学びに向かう力、人間性等】c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深める。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとするとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	A 単元 第1章 古文への扉 【知識及び技能】 古語の特徴や使い方に関して学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえ叙述を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に親しみをもち、これからの学習に見通しをもって取り組もうとする。	・指導事項 歴史的仮名遣いについて理解する 文中の省略語を補って現代語訳する 説話の特色について理解する。 ・教材（「兄のそら寝」「大江山」） ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	・古文の入門的な文章である説話を読んで、文章の意味は文脈の中で形成されることを理解している。 a ・古典を読むのに必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。 b ・古典作品の説話文学と現代の作品との関係を踏まえ、それぞれの作品の解釈を深めている。 b ・教材の内容に関心をもち、これらの学習に見通しをもって取り組んでいる。 c	○	○	○	12
	B 単元 第8章 漢文への扉 第9章 漢語の特色 1 【知識及び技能】 漢文句法を学び、熟語の分析を行うことで、言葉の働きを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 漢文句法を踏まえ、漢文の構成等についての確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、これからの学習に見通しをもって取り組む。	・指導事項 日本語との構造の違いを理解する 漢文訓読の仕方を学ぶ。 返り点の種類とそれに従った読み方を理解する。 「書き下し文の原則」を理解する 助字の種類と用法を理解する。 返読文字、再読文字の種類と、読み方、意味を理解する。 ・教材「漢文入門」「借虎威」等 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	・漢文句法を学び、文章の意味は文脈の中で形成されることを理解している。 a ・漢文句法を踏まえ、漢文の構成などについての確に捉えている。 b ・教材の内容に関心をもち、これらの学習に見通しをもって取り組んでいる。 c	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
	C 単元 第2章 人間の普遍的姿 1 第3章 自分という他者 【知識及び技能】 物語や日記を読むことで言葉の特徴や使い方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物語作品の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について叙述を基に的確に理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 作品を手がかりに作者の思いや筆者の考え方を読み取る。	・指導事項 物語に表れた心情を読み取る。 構成を意識して作品への理解を深める。 筆者のものの見方を理解する。 ・教材 第2章伊勢物語 「芥川」p45・「梓弓」p53 第3章 土佐日記「門出」p58 (第2章竹取物語「かぐや姫誕生」) ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	・古典を読むために必要な文語の決まり（係り結びの法則等）、古典特有の表現などについて理解している。 a ・古典の世界に親しむために、作品の歴史的、文化的背景を理解している。 a ・『伊勢物語』『土佐日記』を読み、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 a ・「歌物語」の成立の背景や、「日記文学」の歴史的・文化的背景などを理解している。 a ・「歌物語」「日記文学」という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 b ・『伊勢物語』『土佐日記』の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 b ・物語という文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開などの叙述を基に的確に捉えている。 b	○	○	○	12
	D 単元 第9章 漢語の特色 2 【知識及び技能】 故事成語を読み、言葉には文化の継承、発展を支える働きがあることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 描かれた言葉と行動から人間像を読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心と親しみをもち、これからの学習に見通しをもって取り組み、言語文化への興味関心を深める。	・指導事項 教材の内容と故事について理解する。 教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・教材「漁父之利」等 参考「朝三暮四」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	・故事成語を読んで、文章の意味は文脈の中で形成されることを理解している。 a ・故事成語を読んで、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことで語感を磨き、語彙を豊かにしている。 a ・故事成語の構成や展開、表現の仕方、表現の特色を捉えている。 b ・教材の内容に関心と親しみをもち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。 c ・教材の内容に関心をもち、それらを継承していくことに自覚を持とうとしている。 c	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1

2 学 期	第4章 ことばに現れる意志 第6章 人間の普遍的姿2 【知識及び技能】 助動詞・係り結びの法則について理解している。 音便・敬語法・対句表現について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 随筆に表れた心情を読み取る。 随筆に描かれた当時の人々の生活や考え方を理解する。 背景を考えながら作品の視点を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 随筆の成立した背景や他の作品との関係を踏まえて関心を深め、それらを継承していくこととする。	・指導事項 物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。 物語に描かれた当時の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・教材 第4章徒然草 「つれづれなるままに」 p72 「花は盛りに」 p78 参考「兼好法師が詞のあげつらひ」 p81 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「徒然草」と「玉勝間」を読み比べて、それぞれに表れるものの見方、感じ方、考え方を捉えている。b ・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。c ・教材の内容に関心を持ち、それらを継承していくことに自覚を持とうとしている。c ・我が国の言語文化に関心と親しみを持ち、それらを自ら語り継いでいくことに自覚が生まれつつある。c	○	○	○	12
	D 単元 第10章 言動に表れる人間の本質 【知識及び技能】 故事成語を読み、言葉には文化の継承、発展を支える働きがあることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 描かれた言葉と行動から人間像を読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組み、言語文化への興味関心を深める。	・指導事項 教材の内容と故事について理解する。 教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・教材「刺客刑軻」等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「刺客刑軻」を読んで、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。a ・「刺客刑軻」に表れているものの見方、考え方、感じ方を捉え、内容を解釈している。 b ・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。 c ・教材の内容に関心を持ち、それらを継承していくことに自覚を持とうとしている。c				8
	定期考査						○	○		1
	第5章 転換期の文体と行動 【知識及び技能】 助動詞・係り結びの法則について理解している。 音便・敬語法・対句表現について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物語に表れた心情を読み取る。 物語に描かれた当時の人々の生活や考え方を理解する。 背景を考えながら作品の視点を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の成立した背景や他の作品との関係を踏まえて関心を深め、それらを継承していくこととする。	・指導事項 語りの文体が表す臨場感に触れる『平家物語』冒頭の内容を理解する 『平家物語』がもつ現代的な意義について理解する。 ・教材 平家物語「木曾の最期」「那須与一」等 参考：第10章「那須宗高」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・語りの文体で書かれた「転換期の文学」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。a ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。a ・和漢混淆文など歴史的な文体の変化について理解を深める。a ・『平家物語』の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 b ・教材の内容に関心を持ち、それらを継承していくことに自覚を持とうとしている。c ・我が国の言語文化に関心と親しみを持ち、それらを自ら語り継いでいくことに自覚が生まれつつある。c				12
	第11章 唐詩を翻案する 【知識及び技能】 唐詩の種類や表現、修辭やその役割について理解する。 唐詩の詩人について、その人となりや作詩の背景を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 唐詩を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 唐詩を通して心情を伝える表現を身に付ける。	・指導事項 唐詩を声に出して読み、音声として味わう。 唐詩の表現に即して内容を味わい作者の心情を理解する。 唐詩の種類、修辭とその役割について理解する。 詩人について理解を深める。 句法にうちて理解する。 ・教材「登鶴鵲楼」「涼州詞」「登岳陽楼」等 参考：「雪のいと高う降りたるを」「翻案を通じて、自分の思いを伝えよう」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・唐詩を通して、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 a ・唐詩を通して、文章の意味は文脈の中で形成されることを理解するとともに、特徴的な語句を増やすなど我が国への影響を理解している。 a ・古典の世界を理解するために、唐詩の歴史的、文化的背景を理解している。a ・翻案詩への理解を深める中で、文章の種類、構成。展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。b ・唐詩を通して、我が国の言語文化に関心と親しみを持ち、それらを継承していくことに自覚を持とうとしている。c	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1

[illegible]

高等学校 令和7年度（1 学年用）教科

地理歴史 科目 歴史総合

教科： 地理歴史 科目： 歴史総合

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：山本 武蔵、中橋 健、小林 優太郎

使用教科書：（『明解歴史総合』帝国書院）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】近現代世界の地理的特色と日本及び世界の歴史について理解し、諸資料からまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味・意義・概念などを活用し、多角的に考察し、効果的に説明し議論する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】課題を主体的に解決しようとする態度を養い、わが国への愛情、他国の文化を尊重する自覚を深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から様々な情報をまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象を、時代・年代・推移・比較・相互の関連・現在とのつながりなどに注目し、既習の概念などを活用して、多角的に考察、把握して、構想する力や、説明したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会への課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養い、多角的な考察や理解を通じ、日本国民の自覚、愛情、他国や他国の文化を尊重する自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 歴史と私たち 【知識及び技能】 日本と世界が関連していることを知る。 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 日本と世界の関連の例をあげる。	・指導事項 日本と世界の関連の例を示す。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 日本と世界の事象が関連していることを理解する。 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 自分なりに課題に取り組んでいる。	○		○	1
	B単元 歴史の特色と資料 【知識及び技能】 資料の重要性と、特色について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料の解釈について考えてみる。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 歴史が資料からつくられることを理解する。資料の特色について理解する。 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 資料の種類・特色・重要性について理解する。 【思考・判断・表現】 資料の制作には意図があることを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		1
	C 単元 江戸時代の日本と結びつく世界 【知識及び技能】18世紀の日本を、アジアや欧米諸国と関連で捉える。 【思考力、判断力、表現力等】18世紀に至る交易の意義と地域変容を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】18世紀の交易・現代の貿易の違いについて考察し、原因を求める。	・指導事項 18世紀の日本を、アジア・欧米諸国との関連で捉え、日本近代化について考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】18世紀の日本・世界の基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、18世紀の日本について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、18世紀の日本について、課題を設け追求する。	○	○	○	6
	D 単元 欧米職における近代化 【知識及び技能】市民革命・産業革命・国際分業などについて学び、社会の変化について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、19世紀の社会の変化について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】市民革命や産業革命が与えた影響と、現代社会への影響を考察する。	・指導事項 18～19世紀の欧米社会の近代化の特色を捉え、現代社会への影響を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】市民革命・産業革命・国際分業など基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、欧米近代社会について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、欧米諸国の近代化について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	E 単元 近代化の進展と国民国家形成 【知識及び技能】国民国家・帝国主義などについて学び、世界への影響を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、19世紀後半～20世紀初頭の世界的変化について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】欧米諸国の進出に対する、日本を含む東アジア諸国の近代化が、現代社会に与えている課題を考察する。	・指導事項 欧米諸国の国家形成と、その影響について考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】国民国家・帝国主義などについて学び、欧米諸国の国家形成とその影響について基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、19世紀後半～20世紀初頭の世界について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、欧米諸国の近代化とその影響について、課題を設けて追及する。	○	○	○	6

2 学 期	F 単元 アジア諸国の動揺と日本の開国 【知識及び技能】欧米諸国の進出に対し、日本を含むアジア諸国がどのように対応したかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、アジア諸国の近代化を比較し、「西欧の衝撃」の意味について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】日本とアジア諸国の近代化について考察する。 定期考査	・指導事項 欧米諸国の進出に、日本を含むアジア諸国はどのように対応したかを考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】欧米諸国の進出に、アジア諸国がどのように対応したかを基本事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、アジア諸国の対応について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、欧米諸国の進出とアジア諸国の対応について、課題を設けて追及する。	○	○	○	5
				○	○		1
	G 単元 近代化が進む日本と東アジア 【知識及び技能】日本や東アジア諸国の近代化と変化について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、日本の近代化とアジア諸国の関係を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】日本とアジア諸国の近代化が、現代社会に与えている影響について考察する。	・指導事項 日本近代化の特色を捉え、東アジア諸国との関連を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】日本と東アジア諸国の近代化と、関連について基本事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、日本と東アジア諸国の近代化について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、日本と東アジア諸国の近代化について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
	H 単元 第一次世界大戦と日本の対応 【知識及び技能】第一次世界大戦が、日本を含む世界への影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、第一次世界大戦の影響を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】第一次世界大戦の影響を考察する。 定期考査	・指導事項 第一次世界大戦が日本を含む世界にどのような影響を与えたかを考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】第一次世界大戦が、日本を含む世界に与えた影響について基本事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、第一次世界大戦の影響について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、第一次世界大戦の影響について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
				○	○		1
	I 単元 国際協調と大衆社会の広がり 【知識及び技能】戦間期の国際秩序と、大衆社会について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、戦間期の国際秩序と大衆社会の特色を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】戦間期の国際秩序と大衆社会の特色を考察する。	・指導事項 戦間期の国際社会の形成と、各国に生じた大衆社会を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】戦間期の国際社会の形成と、大衆社会日について基本事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、戦間期の国際秩序と大衆社会について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、戦間期の国際秩序と大衆社会について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
	J 単元 日本の行方と第二次世界大戦 【知識及び技能】大衆社会の中から、第二次世界大戦が始まったことについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、大衆社会の中から第二次世界大戦が始まる過程を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】大衆社会と第二次世界大戦が始まったことを考察する。 定期考査	・指導事項 戦間期の大衆社会の中から、第二次世界大戦が始まったことを考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】戦間期の大衆社会の中から、第二次世界大戦が始まる過程について基本事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、大衆社会と第二次世界大戦の勃発について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、第二次世界大戦を招いた大衆社会について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
				○	○		1

3 学 期	K単元 再出発する世界と日本 【知識及び技能】第二次世界大戦後の国際秩序の変化と日本の改革について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、新たな国際社会の中での日本のあり方を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】戦後の国際社会の中での日本のあり方を考察する。	・指導事項 戦間期の大衆社会の中から、第二次世界大戦が始まったことを考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】第二次世界大戦後の国際秩序の形成と、日本の改革について基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、第二次世界大戦後の国際社会と日本のあり方について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、第二次世界大戦を国際秩序と日本について、課題を設け追求する。	○	○	○	5
	L単元 冷戦で揺れる世界と日本 【知識及び技能】第二次世界大戦後の冷戦の中で、日本と世界の対応について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、冷戦下の日本と世界の対応を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】冷戦下の日本と世界の動向を考察する。	・指導事項 第二次世界大戦の冷戦の中での、日本や世界の動向を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】第二次世界大戦後の冷戦下での、日本や世界の動向について基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、冷戦下の日本と世界のあり方について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、冷戦下の日本と世界の動向について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
	M単元 多極化する世界 【知識及び技能】冷戦構造が変化する中での、日本と世界の動向について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、冷戦構造の変化下の日本と世界の動向を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】冷戦構造変化下の日本と世界の動向を考察する。	・指導事項 冷戦構造変化下での、日本や世界の動向を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】冷戦構造変化下での、日本や世界の動向について基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、冷戦構造変化下の日本と世界のあり方について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、冷戦構造変化下の日本と世界の動向について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計 78

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 公民 科目 公共

單位數： 2 單位

使用教科書：（ 高等学校 公共 清水書院

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。深い理解や考察からくる人間としての在り方生き方、公民として自国を愛し、平和・繁栄を図り、各国民が協力しあう大切さ等への自覚を深める。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の課題を考察し判断するための概念や理論について理解している。諸資料から、倫理的主体などとして必要な情報を適切かつ効果的に把握できる。	現実社会の諸課題の解決に向け、判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における原理を活用し、事実を多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画に向けて構想し検討、議論する力をつける。	よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。深い理解や考察からくる現代社会の人間としての在り方き方、公共的空間に生きる公民として自国を愛し、平和・繁栄を図り、各国民が協力しあう大切さ等への自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 章公共的空間をつくる私たち 【知識及び技能】青年期、発達課題、欲求、ギリシャ思想、一神教、東洋思想、日本思想の基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】自己形成の課題や先哲思想から考察したことを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】主体的によりよい課題解決をしようとする。	・指導事項 青年期、発達課題、欲求、ギリシャ思想、一神教、東洋思想、日本思想 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】青年期、発達課題、欲求、ギリシャ思想、一神教、東洋思想、日本思想の基礎知識を身につける。 【思考・判断・表現】自己形成の課題や先哲思想から考察したことを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的によりよい課題解決をしようとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	2 章公共的な空間における人間 【知識及び技能】前章を踏まえて義務論、功利主義、生命・環境倫理の基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】倫理的判断において知識を活用し多角的に考察、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】主体的によりよい課題解決をしようとする。	・指導事項 前章を踏まえて義務論、功利主義、生命倫理、環境倫理 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】前章を踏まえて義務論、功利主義、生命・環境倫理の基礎知識を身につけている。 【思考・判断・表現】倫理的判断において知識を活用し、多角的に考察、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的によりよい課題解決をしようとしている。	○	○	○	5
	3章公共的な空間における基本的原理 【知識及び技能】前章を踏まえて近代の人間像、科学的思考、国家社会と人間性、公共性、公正な社会と個人について基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】公共的な空間における基本的原理について、多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】主体的によりよい課題解決をしようとする。	・指導事項 前章を踏まえて近代の人間像、科学的思考、社会契約説、近代思想、現代思想の基礎知識を身につける。 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】前章を踏まえて近代の人間像、科学的思考、国家社会と人間性、公共性、公正な社会と個人について基礎知識を身につけている。 【思考・判断・表現】公共的な空間における基本的原理について、多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的によりよい課題解決をしようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	2 編1 章民主政治の原理 【知識及び技能】近代民主主義国家の思想、基本原理や日本国憲法成立の基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】近代民主主義国家の課題を多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】近代民主主義国家に関心をもち、主体的に考察しようとする。	・指導事項 民主社会の思想、成立や仕組み、世界の諸制度、政党、世論形成、政治参加、選挙 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】近代民主主義国家の思想、基本原理や日本国憲法成立の基礎知識を身につけている。 【思考・判断・表現】近代民主主義国家の課題を多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】近代民主主義国家に関心をもち、主体的に考察しようとしている。	○	○	○	2

2 学 期	2 章 人権の尊重と日本国憲法 【知識及び技能】日本国憲法の原理と人権保障、国際社会について基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】日本国憲法の原理と人権保障、国際社会についての基礎知識を理解し諸課題を多角的に考察し判断、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】憲法や諸課題に関心をもち、自己の生き方と結び付けて考察しようとする。	・指導事項 憲法の三大原理と思想、基本的人権、法の支配、立憲主義主義、憲法成立の歴史 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】日本国憲法の原理と人権保障、国際社会について基礎知識を身につけている。 【思考・判断・表現】日本国憲法の原理と人権保障、国際社会についての基礎知識を理解し諸課題を多角的に考察し判断、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】憲法や諸課題に関心をもち、自己の生き方と結び付けて考察しようとしている。	○	○	○	7
	3 編 1 章民主政治の成立と課題 【知識及び技能】民主政治と政治参加、選挙と政党についての理解と基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】現代民主政治について課題を見出し、多角的に考察し、判断し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】現代民主政治や政治参加に関心を高め、主体的に生きる人間の在り方を考察しようとする。	・指導事項 民主社会の思想と成立、仕組み、世界の制度、政党、世論形成、政治参加、選挙 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】民主政治と政治参加、選挙と政党についての理解と基礎知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】現代民主政治について課題を見出し、多角的に考察し、判断し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】現代民主政治や政治参加に関心を高め、主体的に生きる人間の在り方を考察しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	2 章 日本の政治機構 【知識及び技能】国会や内閣、司法や地方自治についての基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】立法、司法、財政、政治参加について幸福・正義・公正の観点から考察、判断できるようにする。 【学びに向かう力、人間力等】本章を理解し、課題解決のため政治参加の意欲を高めさせる。	・指導事項 立法・行政・司法・地方自治の仕組みと課題 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】国会や内閣、司法や地方自治の基礎知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】立法、司法、財政、政治参加について幸福・正義・公正の観点から考察、判断できる。 【学びに向かう力、人間力等】本章を理解し、課題解決のため政治参加の意欲を高めている。	○	○	○	6
	3 章 国際政治のしくみと役割 【知識及び技能】国際政治についての基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】国際政治について幸福・正義・公正の観点から判断し表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間力等】国際政治に関心をもち、考察しようとする。	・指導事項 国際社会、人権、主権、国際法、国際機関、冷戦・後の状況 ・教材 資料集 プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】国際政治についての基礎知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】国際政治について幸福・正義・公正の観点から判断し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】国際政治に関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	6
	4 章 国際政治の現状と課題 【知識及び技能】戦後国際社会について基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】戦後国際政治に幸福・正義・公正の観点から判断し表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間力等】戦後国際政治に関心をもち、考察しようとする。	・指導事項 現代の国際紛争、多文化共生、安全保障、国際貢献 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】戦後国際社会について基礎知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】戦後国際政治に幸福・正義・公正の観点から判断し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】戦後国際政治に関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	3
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	4 編1章 私たちと経済活動 【知識及び技能】経済についての基礎知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】経済について幸福、正義、公正の観点から考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間力等】経済の役割について、社会に生きる自分に近づけて考察しようとする。	・指導事項 消費者の権利義務、職業選択、マクロ経済 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】経済についての基礎知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】経済について幸福、正義、公正の観点から考察し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】経済の役割について、社会に生きる自分に近づけて考察しようとする。	○	○	○	5
	2章 経済社会のしくみと役割 【知識及び技能】市場経済、金融、財政の基礎知識を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】現代の経済的課題を幸福、正義、公正の観点から多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間力等】現代の経済的課題に関心を高め、自己の生き方と結び付けて考察しようとする。	・指導事項 市場経済、金融、財政、企業、雇用、社会保障、日本経済史、公害、環境保全 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】市場経済、金融、財政、日本経済史の基礎知識を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】現代の経済的課題を幸福、正義、公正の観点から多角的に考察し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】現代の経済的課題に関心を高め、自己の生き方と結び付けて考察しようとする。	○	○	○	8
	3章 国際経済の現状と課題 【知識及び技能】国際経済について基礎知識を身につけ課題を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】国際経済の諸問題について幸福、正義・公正の観点から考察させ表現させる。 【学びに向かう力、人間力等】国際経済の諸問題に関心を高め、考察しようとする。	・指導事項 国際経済、外国為替、円高・円安、グローバル化、国際協調 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】国際経済について基礎知識を身につけ課題を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】国際経済の諸問題について幸福、正義・公正の観点から考察し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】国際経済の諸問題に関心を高め、考察しようとする。	○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1
	5編 ともに生きる社会をめざして 【知識及び技能】これまでの学習内容を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題に幸福、正義・公正の観点から課題を見出し、解決策を多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間力等】持続可能な社会を担う、公共の精神を持った自立した主体として社会に参画しようとする。	・指導事項 既習事項、人工知能、環境、資源、少子高齢化、地域社会 ・教材 資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】既習事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題に幸福、正義・公正の観点から課題を見出し、解決策を多角的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】持続可能な社会を担う、公共の精神を持った自立した主体として社会に参画しようとする。	○	○	○	4
						合計	76

高等学校 令和 7 年度（1 学年用）		数学	数学 I
教 科： 数学	科 目： 数学 I	単位数： 3	単 位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組			
教科担当者：（1 組：早川 ） （2 組：島村 ） （3 組：早川 ） （4 組：神田 ） （5 組：神田 ） （6 組：大塚 ） （7 組：早川 ） （8 組：大塚 ）			
使用教科書：（ 高等学校数学 I（数研出版） ）			
教科 数学		の目標：	

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
第1章 数と式 第1節 式の計算 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 式の一部を1つの文字のように見なしたり、積の順序を工夫したりするなど、複雑な式を見通しをもって展開することができる。式の一部を1つの文字のように見なしたり、1つの文字について整理したりするなど、複雑な式を見通しをもって因数分解することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとしている。多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとしている。乗法公式と因数分解を関連付けながら理解しようとしている。	・指導事項 多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 ・教材 教科書・サクシード数学ⅠA・チャート式数学Ⅰ＋A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 式についての用語の意味を理解している。特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方を行うことができる。多項式の加法・減法・指数法則、多項式の乗法について基本的な計算を行うことができる。2次の乗法公式を理解し、式を展開することができる。乗法公式と関連付けながら因数分解の公式を理解し、たすき掛けを含む因数分解を行うことができる。 【思考・判断・表現】 式の一部を1つの文字のように見なしたり、積の順序を工夫したりするなど、複雑な式を見通しをもって展開することができる。式の一部を1つの文字のように見なしたり、1つの文字について整理したりするなど、複雑な式を見通しをもって因数分解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとしている。多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとしている。乗法公式と因数分解を関連付けながら理解しようとしている。	○	○	○	6

第2節 実数 【知識及び技能】有理数が整数，有限小数，循環小数のいずれかで表される理由を理解している。有理数が整数，有限小数，循環小数のいずれかで表される理由を理解している。循環小数を表す記号を用いて，分数を循環小数で表すことができる。循環小数を分数で表すことができる。有理数，無理数，実数の定義を理解し，それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し，絶対値の性質について理解している。平方根の定義を理解し，根号を含む式の計算をすることができる。分母に根号を含む基本的な分数を有理化することができる。 【思考・判断・表現】四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。根号を含む式の計算について，一般化して考えられる。 【思考力、判断力、表現力等】四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。根号を含む式の計算について，一般化して考えられる。 【学びに向かう力、人間性等】式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。	・指導事項 実数 数直線上の2点間の距離 根号を含む式の計算多項式の乗法 2重根号 ・教材 教科書・サクシード数学ⅠA・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】有理数が整数，有限小数，循環小数のいずれかで表される理由を理解している。有理数が整数，有限小数，循環小数のいずれかで表される理由を理解している。循環小数を表す記号を用いて，分数を循環小数で表すことができる。循環小数を分数で表すことができる。有理数，無理数，実数の定義を理解し，それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し，絶対値の性質について理解している。平方根の定義を理解し，根号を含む式の計算をすることができる。分母に根号を含む基本的な分数を有理化することができる。 【思考・判断・表現】四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。根号を含む式の計算について，一般化して考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。	○	○	○	5
第3節 1次不等式 【知識及び技能】不等式の性質を理解している。不等式を解の意味を理解し，1次不等式の解を求めることができる。連立不等式を解くことができる。絶対値記号を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】$A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ，不等式を解くことができる。身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ，問題を解決することができる。絶対値記号を含むやや複雑な式についても，適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 【学びに向かう力、人間性等】不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察しようとする。不等式における解の意味について，等式における解と比較して，考察しようとする。絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	・指導事項 1次不等式 不等式の性質 絶対値を含む方程式・不等式 絶対値と場合分け ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】不等式の性質を理解している。不等式を解の意味を理解し，1次不等式の解を求めることができる。連立不等式を解くことができる。絶対値記号を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】$A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ，不等式を解くことができる。身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ，問題を解決することができる。絶対値記号を含むやや複雑な式についても，適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察しようとする。不等式における解の意味について，等式における解と比較して，考察しようとする。絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	○	○	○	9

1 学 期	定期考査			○	○		1
	第2章 集合と命題 【知識及び技能】 集合に関する基本的な概念を理解し，集合と要素の関係や集合同士の関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。命題や条件に関する基本的な概念を理解している。・命題の逆・裏・対偶と，それらともの命題の真偽の関係を理解している。命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており，それらの真偽を調べることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 集合について学んだことをもとにド・モルガンの法則を理解し，利用することができる。条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。ベン図などを用いて，集合を視覚的に表現して考察することができる。命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。命題が偽であることを示すには，反例を1つあげればよいことが理解できている。命題の条件や結論に着目し，命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで，命題を証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を集合と命題の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。集合について，それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとしている。3つの集合についても，和集合，共通部分について考察しようとしている。命題と条件の違いや，命題と集合との関係について，積極的に理解しようとする。条件を満たすものの集合の包含関係が，命題の真偽に関連していることに着目し，命題について調べようとする態度がある。	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 集合に関する基本的な概念を理解し，集合と要素の関係や集合同士の関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。命題や条件に関する基本的な概念を理解している。・命題の逆・裏・対偶と，それらともの命題の真偽の関係を理解している。命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており，それらの真偽を調べることができる。 【思考・判断・表現】 集合について学んだことをもとにド・モルガンの法則を理解し，利用することができる。条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。ベン図などを用いて，集合を視覚的に表現して考察することができる。命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。命題が偽であることを示すには，反例を1つあげればよいことが理解できている。命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を集合と命題の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。集合について，それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとしている。3つの集合についても，和集合，共通部分について考察しようとしている。命題と条件の違いや，命題と集合との関係について，積極的に理解しようとする。条件を満たすものの集合の包含関係が，命題の真偽に関連していることに着目し，命題について調べようとする態度がある。	○	○		10
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 【知識及び技能】 （ア）二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 （ア）二次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察すること 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 関数とグラフ 2次関数のグラフ ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 関数についての基本的な概念を理解している。定義域が制限された1次関数の最大値・最小値を，グラフを利用して求めることができる。2次関数のグラフについて，軸や頂点などの特徴を理解し，実際にグラフをかくことができる。 【思考・判断・表現】 2次関数の式とグラフとの関係について，多面的に考察することができる。2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。2つの放物線の位置関係について頂点に着目して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を2次関数の考えを用いて考察することのよさを認識し，問題解決に活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って，考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 $y=ax^2$ のグラフをもとに，2次関数 $y=ax^2+q$, $y=a(x-p)^2$, $y=a(x-p)^2+q$, $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかく方法を考えようとしている。	○	○	○	9

第2節 2次関数の値の変化 【知識及び技能】 (ア) 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること (イ) 2次関数の最大値や最小値を求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 (イ) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】定義域に応じて、2次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。2次関数のグラフについて、与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	9
第3節 2次関数と2次不等式 【知識及び技能】 (ウ) 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解すること。また、2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 (イ) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。2次方程式において、判別式$D=b^2-4ac$の符号と実数解の個数の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。2次不等式を解くことができる。2次の連立不等式を解くことができる。2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、$D=b^2-4ac$の符号から考察することができる。2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。1次の係数が$2b'$である2次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。1次関数と1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。2次不等式を解く	○	○	○	15
定期考査			○	○		1
第4章 図形と計量 第1節 三角比 【知識及び技能】図形と計量について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(ア) 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。(イ) 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 (ア) 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くこと。 【学びに向かう力、人間性等】		【知識・技能】鋭角の三角比の意味を三角形の構成要素間の関係に関連付けて理解している。三角比の定義式を変形して、一边と角から直角三角形の他の長さを求めることができる。三角形の相互関係や$90^\circ - A$の三角比について理解している。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、0° から180° までの三角比を求める方法を理解している。正弦、余弦、正接の値からその角の大きさを求めることができる。拡張した三角比の相互関係や$180^\circ - \theta$の三角比について理解している。正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。 【思考・判断・表現】図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などに三角比を活用することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、三角比を利用して日常に関する問題を解決することができる。直線とx軸とのなす角を、正接を用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとしている。三角比について学んだことを、日常の事象の問題解決に生かそうとしている。鋭角の三角比と鈍角の三角比を統合的に捉えようとしている。三角比の相互関係が拡張した三角比についても成り立つかを考えようとしている。	○	○	○	12

第2節 三角形への応用 【知識及び技能】 (ウ) 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 (イ) 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。 【思考・判断・表現】 三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係として、正弦定理を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
第2節 三角形への応用 【知識及び技能】 (ウ) 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 (イ) 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。三角比を測量に応用できる正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。三角形の辺の長さや角の大きさと余弦定理との関係を考察することができる。正弦定理を $a:b:c=\sin A:\sin B:\sin C$ としてとらえ、三角形の角の大きさについて考察することができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。円に内接する四角形の面積を求める方法を考察することができる。空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 余弦定理の図形的意味を考察する。また、三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$ なども求めようとする。三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	○	○	○	9

第5章 データの分析 【知識及び技能】（ア）分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解すること。 （イ）コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすること。 （ウ）具体的な事象において仮説検定の考え方を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】（ア）データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察すること。 （イ）目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。 （ウ）不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】度数分布表、ヒストグラムについて理解している。平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。偏差の定義とその意味を理解している。分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 【思考・判断・表現】データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。外れ値を見出す意義を理解し、外れ値の統計量への影響について考察することができる。変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】データを整理して全体の傾向を考察しようとする。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	○	○	○	10
総合演習 課題学習	・指導事項 集合 命題と条件 3つの集合の共通部分と和集合 「すべて」と「ある」の否定 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【思考・判断・表現】長方形の辺の比を題材として、黄金比について考察することができる。座標平面上にかかれた1つの放物線は、x軸、y軸の目盛りの比を適当に変えることですべて相似になることを確かめることができる。関数のグラフを利用して、絶対値を含む不等式の解を求めることができる。正弦定理を用いて加法定理を導くことができる。多面体とそれに内接する球について、体積の比と表面積の比を考察することができる。偏差値の求め方やその数値の意味について、理解することができる。データの分布がどのような場合に偏差値を用いて比較を行うことが適しているか考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】身近にある無理数として黄金比を学び、無理数に関する理解を深め、関心を高める。相似変換についての理解を深め、考察しようとする。絶対値記号を含む関数のグラフと方程式、不等式の関係に関心をもち、考察しようとする。正弦定理を活用して加法定理を見出そうとする。多面体とそれに内接する球について、三角比を用いて考察を深めようとする。身近な問題について、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法を用いて分析を行い、それらを用いて問題解決しようとしたり、解決の過程や結果を批判的に考察したりしようとする。		○	○	7
定期考查			○	○		1 合計 117

高等学校 令和7年度(1学年)教科

数学

科目 数学Ⅱ

教科： 数学

科目： 数学Ⅱ

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： (1 組：早川) (2 組：島村) (3 組：早川) (4 組：神田) (5 組：神田) (6 組：大塚) (7 組：早川) (8 組：大塚)

使用教科書： (『高等学校 数学Ⅱ』 数研出版)

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	A 単元 式と証明 【知識及び技能】・三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算ができる。 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。 ・二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できる。 ・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	・指導事項 いろいろな式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 分数式の約分、四則計算ができる。 ○恒等式となるように、係数を決定することができる。 ○恒等式A = Bの証明を、適切な方法で行うことができる。 実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 【思考・判断・表現】○数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ○不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ○比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】○2種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	8
	B 単元 複素数と方程式 【知識及び技能】・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解すること。 ・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	・指導事項 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】○複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○P(k)=0 である k の値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 ○高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	11

	C 単元 図形と方程式 【知識及び技能】座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・指導事項 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○x、yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 ○領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 【思考・判断・表現】○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ○直線が x、y の1次方程式で表されることを理解している。 ○円の方程式が x、y の2次方程式で表されることを理解している。 ○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ○円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。	○	○	○	19
定期考査				○	○	○	1
							合計
							39

高等学校 令和7年度（1学年用）

数学

数学A

教科：数学

科目：数学A

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～8組

教科担当者：（1組：江部）（2組：大塚）（3組：江部）（4組：大塚）（5組：早川）（6組：高山）
（7組：江部）（8組：早川）

使用教科書：（高等学校数学A（数研出版））

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【知識及び技能】 (ア) 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解すること。 (イ) 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を場合の数と確率の考えを用いて考察することのよさを認識し、問題解決に活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。。	・指導事項 集合の要素の個数 場合の数 順列・コラム 組み合わせ ・教材 教科書・サクシード数学ⅠA・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式 完成ノート ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。和集合、補集合の要素の個数の公式を利用できる。ベン図を利用することで、和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、利用することができる。組合せの条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。組分けの総数を求めることができる。同じものを含む順列の総数を求めることができる。 【思考・判断・表現】ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。場合の数を数える適切な方針を考察することができる。自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。同じものを含む順列を、組合せや順列で考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。自然数の正の約数の個数を数えることに興味を示す。既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。色の塗り分けの方法を数えるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。重複組合せについて理解し、そ	○	○	○	14

定期考査			○	○		1
第2節 確率 【知識及び技能】 （ウ）確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めること。（エ）独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めること。（オ）条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めること。 【思考力、判断力、表現力等】 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察すること。 （イ）確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察すること。 （ウ）確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を図形の性質の考えを用いて考察することのよさを認識し、問題解決に活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する。問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。	・指導事項 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付確率 原因の確率 期待値 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ＋A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 確率の意味、試行や事象の定義を理解している。試行の結果を事象として表すことができる。確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。積事象、和事象の定義を理解している。確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。反復試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的に捉えることができる。集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。結果が不確実な状況下において、どの選択が合理的かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。	○	○		13
定期考査			○	○		1
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【知識及び技能】 （ア）三角形に関する基本的な性質について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 （ア）図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすること。 （イ）コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 チェバの定理・メネラウスの定理 三角形の辺と比 円に内接する四角形 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ＋A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積を求める問題に活用できる。三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解している。 【思考・判断・表現】 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法が理解できる。チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。	○	○		15
定期考査			○	○		1

第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【知識及び技能】（イ）円に関する基本的な性質について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】（ア）図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすること。 （イ）コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 円と直線 二つの円 作図 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ＋A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。四角形が円に内接するための条件を利用して、円に内接する四角形を求めることができる。円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。円の接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。共通接線の定義を理解し、その長さの求め方がわかる。中学校で学んだ垂線の作図を知っている。線分の内分点・外分点の作図や、 b/a や ab の長さをもつ線分の作図ができる。 $\sqrt{a}$ の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し、得られた図形が確かに条件を満たすことを証明することができる。 【思考・判断・表現】円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。方べきの定理について、対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。2つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。平行線と線分の比の性質を利用して、内分点・外分点の作図の方法や、 b/a や ab の長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。方べきの定理の逆が成り立つことに興味・関心をもつ。2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。五角形の作図の手順を理解し、正五角形以外にもいろいろな図形の作図に興味・関心をもつ。コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして、作図の方針を立てようとする。	○	○	○	5
第2節 空間図形 【知識及び技能】（ウ）空間図形に関する基本的な性質について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】（ア）図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすること。 （イ）コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 直線と平面 空間図形と多面体 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ＋A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。 【思考・判断・表現】空間における直線と平面が垂直になるための条件を、与えられた立体に当てはめて考察することができる。空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察することができる。正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに興味をもつ。	○	○	○	13

	定期考査			○	○		1
3 学 期	第3章 数学と人間の活動 【知識及び技能】 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解すること。 (イ) 数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについての理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察すること。 (イ) パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて数学を活用して考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 約数と倍数 素数と因数分解 最大公約数・最小公倍数 整数の割り算 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 記数法 ゲーム・パズルの中の数学 ・教材 教科書・サクシード数学Ⅰ・A・チャート式数学Ⅰ+A・チャート式完成ノート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 約数・倍数の意味を理解している。いろいろな数の倍数の判定法を理解している。自然数の素因数分解を求めることができる。自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。互いに素の意味を理解している。整数 a を正の整数 b で割る割り算を、 a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。2つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し、 $a+b$ などの余りを求めることができる。互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 a, b が互いに素であるとき、どんな整数 c についても $ax+by=c$ を満たす整数 x, y が存在することを理解し、具体的な方程式について整数解を1つ求めることができる。1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。記数法、10進法、2進法、 n 進法について理解している。 n 進法の整数を10進法で、10進法の整数を n 進法で表すことができる。地上における特定の地点を、座標平面上の点と捉えて位置を座標で表現できる。空間における特定の地点を、座標空間上	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1 学年用）

教科 理 科

科目 化学基礎

教科：理 科

科目：化学基礎

単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（ 1 組：酒井 ）（ 2 組：酒井 ）（ 3 組：酒井 ）（ 4 組：高田 ）（ 5 組：高田 ）（ 6 組：澤田 ）（ 7 組：澤田 ）（ 8 組：澤田 ）

使用教科書：（ 高等学校 化学基礎 啓林館 ）

教科 理 科

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験に関する技能を身に付けている。	・化学的な事物・現象に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・レポート等を様式や期日を守って提出できる。 ・授業や小テストなどに積極的に取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学 期	1－2 物質の構成粒子 【知識及び技能】 ・原子の構造 ・電子配置と周期表の基本的概念や原理・法則などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを理解する。 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって、科学的に考察する。	・指導事項 原子、原子核、電子、陽子、中性子、電気素量、原子番号、質量数、同位体、半減期、電子殻、電子配置、荷電子、貴ガス 周期律、周期表、同属元素、典型元素、アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン、遷移元素、金属元素、非金属元素 ・教材 資料集他 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 ・原子の構造 ・電子配置と周期表の基本的概念や原理・法則などを理解している。 【思考・判断・表現】 ・原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる規則性や関係性を見出して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	1－3 化学結合 【知識及び技能】 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合の基本的概念や原理・法則などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって、科学的に考察する。	・指導事項 組成式、クーロン力、イオン結晶 分子、分子式、単原子分子、共有結合、電子対、共有電子対、構造式、価標、原子価、単結合、配位結合、錯イオン、配位子、電気陰性度、極性分子、分子結晶 自由電子、金属結合、延性、展性 ・教材 資料集他 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合の基本的概念や原理・法則などを理解している。 【思考・判断・表現】 ・物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。 規則性や関係性を見出して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○	○	1
	2－1 物質量と化学反応式 【知識及び技能】 ・物質量 ・化学反応式の基本的概念や原理・法則などを理解する。 ・化学変化の量的関係を把握する方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって、科学的に考察する。	・指導事項 原子量、分子量、式量 物質量、アボガドロ定数、mol、モル質量、アボガドロの法則、標準状態、モル体積、溶液、溶媒、溶質、濃度、質量パーセント濃度、モル濃度、溶解度、再結晶 化学反応式、反応物、生成物、係数、未定係数法、イオン反応式 ・教材 資料集他 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 ・物質量 ・化学反応式の基本的概念や原理・法則などを理解している。 ・化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 規則性や関係性を見出して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
	1－1 物質の構成 【知識及び技能】 ・物質の分離・精製 ・単体と化合物 ・熱運動と物質の三態の基本的概念や原理・法則などを理解し知識として身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを通して考察する。 科学的に表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって、科学的に考察する。	・指導事項 混合物、純物質、沸点、融点、溶解度、密度、分離、精製、ろ過、再結晶、蒸留、分留、抽出、昇華、クロマトグラフィー 元素、元素記号、炎色反応、単体、同素体、化合物 熱運動、絶対温度、絶対零度、物質の三態、融解、凝固、蒸発、凝縮、物理変化、化学変化、融点、沸点 ・教材 資料集他 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 ・物質の分離・精製 ・単体と化合物 ・熱運動と物質の三態の基本的概念や原理・法則などを理解し知識として身につけている。 【思考・判断・表現】 観察、実験などを通して探究する。 科学的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	6

2 学 期	2－2 酸と塩基（1） 【知識及び技能】 - 酸・塩基の定義を理解し，日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができるようになる。 【思考力・判断力・表現力等】 - 酸・塩基の観察，実験をもとに共通性を見出し，酸・塩基の定義を理解し，日常生活と関連付けて酸・塩基反応を考察できるようになる。 - 酸・塩基の強弱とpHの観察，実験などを通して，科学的に考察できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって，科学的に考察する。	・指導事項 酸，水素イオン，オキソニウムイオン，塩基，水酸化物イオン，中和，価数，電離度，強酸，強塩基，弱酸，弱塩基 ・教材 資料集他 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 酸・塩基の定義を理解し，日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができる。 【思考・判断・表現】 - 酸・塩基の観察，実験をもとに共通性を見出し，酸・塩基の定義を理解し，日常生活と関連付けて酸・塩基反応を考察できる。 - 酸・塩基の強弱とpHの観察，実験などを通して，科学的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって，振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
	2－2 酸と塩基（2） 【知識及び技能】 - 酸・塩基と中和の基本的概念や原理・法則などを理解する。 - ここでの特別な実験器具の取り扱いができると同時に，酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得する。 【思考力・判断力・表現力等】 - 酸・塩基の強弱とpHの観察，実験などを通して，科学的に考察できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって，科学的に考察する。	・指導事項 pH，水素イオン濃度，指示薬 中和，塩，中和点，中和滴定，滴定曲線 ・教材 資料集他 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 酸・塩基と中和の基本的概念や原理・法則などを理解している。 - ここでの特別な実験器具の取り扱いができると同時に，酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。 【思考・判断・表現】 - 酸・塩基の強弱とpHの観察，実験などを通して，科学的に考察できる。 - 規則性や関係性を見出して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって，振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	○	○	○	12
3 学 期	2－3 酸化還元反応（1） 【知識及び技能】 - 酸化と還元 の基本的概念や原理・法則などを理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 - 様々な観察，実験を通して，酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し，共通性を見出し，酸化還元反応として論理的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって，科学的に考察する。	・指導事項 酸化，還元，酸化還元反応，酸化数 還元剤，酸化剤，酸化還元反応式，酸化還元滴定 ・教材 資料集他 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 酸化と還元の基本的概念や原理・法則などを理解している。 【思考・判断・表現】 - 様々な観察，実験を通して，酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し，共通性を見出し，酸化還元反応として論理的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって，振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	2－3 酸化還元反応（2） 【知識及び技能】 - 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し，実用電池など身近に酸化還元反応が利用されていることを学ぶ。 【思考力・判断力・表現力等】 - 代表的な酸化剤，還元剤の観察，実験の報告書を作成する中で，電子の授受としての規則性を見出し，自らの考えで表現することができるようにする。 - 電池，電気分解の実験を行い，その説明を科学的に表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にかかわる。 見通しをもって，科学的に考察する。	・指導事項 酸化還元反応式，酸化還元滴定 イオン化傾向，金属のイオン化列，不動態 漂白剤，消毒剤，電池，正極，負極，放電，充電，蓄電池，一次電池，二次電池 【発展】ダニエル電池，鉛蓄電池，起電力，燃料電池，電気分解，陰極，陽極 ・教材 資料集他 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し，実用電池など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。 【思考・判断・表現】 - 代表的な酸化剤，還元剤の観察，実験の報告書を作成する中で，電子の授受としての規則性を見出し，自らの考えで表現することができる。 - 電池，電気分解の実験を行い，その説明を科学的に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にかかわる。 見通しをもって，振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	○	○	○	28
	定期考査			○	○	○	1
						合計	117

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科： 理科 科目： 生物基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8組：田中恵子）

使用教科書：（啓林館 i 版 生物基礎

）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生物の特徴 【知識・技能】 生物の基本単位である細胞の構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 【思考・判断・表現】 生物の多様性と共通性、生命活動に必要なエネルギーと代謝について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATPの構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸 ・教材 教科書、問題集、実験器具、各種生物試料、PC等	【知識・技能】 ・顕微鏡やマイクロメーターを正しく使い、観察結果を記録できる。 ・細胞の構造と生物の成り立ち、生物の類縁関係と共通点・相違点に分かる。 ・ATPの役割や代表的な代謝反応の特徴が分かる。 【思考・判断・表現】 ・生物の共通点と相違点を考えられる。 ・代謝とエネルギーについて考えられる。 ・酵素の働きの特徴を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	生物の多様性と生態系 【知識・技能】 生物の多様性と生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性を認識する。 【思考・判断・表現】 生物の多様性と生態系が成り立つ条件、その保全の方法について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 21 生態系における生物の役割 22 種の多様性と食物連鎖 23 生態系と生態ピラミッド 24 キーストーン種と絶滅 25 生態系のバランスと変動 26 生物多様性と生態系の保全 27 環境と生物 28 光の強さと植物 29 森林の階層構造と土壌 30 遷移の過程 31 遷移と世界のバイオーム 32 日本のバイオーム ・教材 教科書、問題集、実験器具、各種生物試料、PC等	【知識・技能】 ・生態系の構造を理解し、食物連鎖と生物の量的関係が分かる。 ・生物多様性とヒトの生活の関連が分かる。 ・植生の一次遷移のしくみが分かる。 ・バイオームの特徴と成立要因が分かる。 【思考・判断・表現】 ・生態系のバランスが保たれる条件を考えられる。 ・植生の一次遷移と植物種、地表照度、土壌の厚さ、土壌有機物%等の変化をデータから読みとれる。 ・環境要因や地理的条件をもとに、成立するバイオームを予想できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
2	遺伝子とその働き 【知識・技能】 細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 【思考・判断・表現】 細胞の働き及びDNAの構造と機能について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 11 生物と遺伝情報 12 DNA の構造と遺伝情報 13 DNA 複製 14 DNA と染色体 15 細胞周期とDNA の分配 16 細胞周期とDNA 量の変化 17 遺伝子発現とタンパク質 18 転写と翻訳 19 遺伝暗号表 20 遺伝子発現と維持 ・教材 教科書、問題集、実験器具、各種生物試料、PC等	【知識・技能】 ・DNAの構造と化学的性質、及び複製過程の関係が分かる。 ・細胞周期と体細胞分裂の特徴が分かる。 ・塩基配列と遺伝情報の関係、転写と翻訳の過程が分かる。 【思考・判断・表現】 ・DNAの複製や転写で合成される、核酸の塩基配列を予想できる。 ・DNAの塩基配列から対応するアミノ酸配列を予想できる。 ・細胞周期と染色体の変化の関係を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1

学 期	ヒトの体の調節 【知識・技能】 生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係を認識する。 【思考・判断・表現】 体内環境を維持する仕組みの働き方を様々なデータをもとに捉え、体内環境の維持と健康との関係を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 33 恒常性と体液 34 血液凝固と線溶 35 恒常性に関わる神経系 36 ホルモンによる調節 37 血糖濃度の調節のしくみ 38 体温と水分量の調節 ・教材 教科書、問題集、実験器具、各種生物試料、PC等	【知識・技能】 ・体内環境としての体液や循環系の重要性和、それらの性質や働きが分かる。 ・恒常性における自律神経やホルモンの働きが分かる。 ・恒常性における肝臓や腎臓の働きが分かる。 【思考・判断・表現】 ・循環系と体液の働きをデータをもとに考えられる。 ・恒常性における肝臓や腎臓の働き、及び自律神経やホルモンの関与を総合的に考えられる。 ・血糖濃度や水分量、体温の調節のしくみをデータをもとに考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	ヒトの体の調節 【知識・技能】 生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係を認識する。 【思考・判断・表現】 体内環境を維持する仕組みの働き方を様々なデータをもとに捉え、体内環境の維持と健康との関係を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 39 生体防御の概要 40 異物侵入を阻止するしくみ 41 自然免疫のしくみ 42 獲得免疫のしくみ 43 抗体とその利用 44 免疫記憶とその利用 45 免疫と病気 ・教材 教科書、問題集、実験器具、各種生物試料、PC等	【知識・技能】 ・生体防御には異物に対する防御と自然免疫、獲得免疫があることが分かる。 ・細胞が排除すべき対象を認識するしくみが分かる。 ・免疫と各種医療の関係が分かる。 【思考・判断・表現】 ・自然免疫と獲得免疫を対比させ、共通点・相違点や両者の関連を考えられる。 ・体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 ・自己免疫疾患やアレルギーについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	19
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： （1・5組：谷口）（2・3・4組：羽場）（6・7・8組：渋谷）

使用教科書： （大修館書店 新高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動特性に応じた技能や安全についての知識及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康について、自他の課題を発見し、課題解決に向け、合理的、計画的に思考・判断する力を身につけるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけられるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	現代社会と健康 （ア）健康の考え方 【知識及び技能】 国民の健康課題や健康の成り立ちを身体的・精神的・社会的な観点から理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 国民の健康課題や健康における事象について、資料やデータをもとに分析し、課題解決の方法を説明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 健康の考え方について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	・生徒一人一人が興味・関心に基づき、自他の課題を資料やデータをもとに分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響が与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。	【知識・技能】 国民の健康課題や健康の成り立ちの理解を深め、適切な生活行動を選び、実践する必要があることを理解し、個人及び社会生活を健康で安全するための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 国民の健康課題や健康における事象について、データや資料を基に、他人の意見を聞き、課題の設定や解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康の考え方について関心を持ち、資料の収集をしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	4
	現代社会と健康 （イ）現代の感染症とその予防 【知識及び技能】 現代の感染症のその予防の原則について、また個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 感染症とその予防について、学習したことを個人及び社会生活と比較、分析し、課題解決に向けて判断することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 感染症とその予防について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	・現代の感染症ととその予防の原則に関する正しい知識を理解し、自他や社会の課題を資料やデータをもとに分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響が与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。 ・生徒の発表学習を通じて、プレゼンテーション能力の育成及び知識の理解が深まるよう指導する。	【知識・技能】 現代の感染症ととその予防の原則についての理解を深め、個人及び社会生活を健康で安全にするための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 現代の感染症ととその予防に関する個人及び社会的な課題について、データや資料を基に、理解し、課題解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代の感染症ととその予防について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	現代社会と健康 （エ）喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 【知識及び技能】 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと社会の関わりを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 疾病の予防について、課題解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 疾病の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	喫煙、飲酒、薬物乱用による健康被害について正しい知識を理解し、未成年の健康被害に関するデータや資料をもとに課題を分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響が与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。 ・生徒の発表学習を通じて、プレゼンテーション能力の育成及び知識の理解が深まるよう指導する。	【知識・技能】 喫煙、飲酒、薬物乱用による身体的・精神的・社会的な影響の理解を深め、個人及び社会生活を健康で安全にするための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する個人及び社会的な課題について、データや資料を基に、理解し、課題解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 喫煙、飲酒、薬物乱用について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	6

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1学年用）教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 1組～8組

教科担当者：川上・渋谷・谷口・羽場・宮崎

使用教科書：（大修館書店 新高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動特性に応じた技能や安全についての知識及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について、自他の課題を発見し、課題解決に向け、合理的、計画的に思考・判断する力を身につけるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動技能を高め、体力の向上と健康の保持増進の必要性について理解し、それらの技能を身につけられるようにする。	各種の運動における自他の課題を発見し、合理的、計画的な実践を通して、課題解決に向けて思考・判断する力及び自分の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。	運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯にわたり継続して運動に親しむ態度を身につけられるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	体づくり運動 【知識及び技能】 体の構造や運動の原則を理解するとともに、運動の特性に応じた動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 運動を通して、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて、取り組み方を工夫したり、考えを仲間に伝えることができる力を身につけさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 運動に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全を確保しようとする力を身につけさせる。	・新体力テストを実施し、現在の体力を把握し、今年度の授業の目標を立てるようにする。 ・一人での運動、複数人での運動を通して、体の構造や効果的な運動の仕方を学び、仲間と強調して運動することの楽しさが実感できるよう指導する。 ・各競技の動きと関連付けた運動を実施することで、これからの授業へのつながりが意識できるよう指導する。 ・運動に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。	【知識・技能】 体づくり運動についての行い方や実生活への取り入れ方について理解し、基本的な運動の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 体力の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための計画を立てるとともに、自己や仲間の課題に応じて、運動の取り組み方を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 運動に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全を確保しながら、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わうことができる。	○	○	○	10
	ラグビー（男子） 【知識及び技能】 安定したボール操作を身につけるとともに、ゴール前での攻防やチームに応じた作戦等で運動に親しむことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防におけるチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習等を工夫し、自己や仲間の考えを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・ラグビーの基本動作である動きや基本的なパスを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ラグビーの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	14
	バレーボール（女子） 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ネット際の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バレーボールの基本動作である動きや基本的なパス、レシーブを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バレーボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	

バレーボール(男子) 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ネット際の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バレーボールの基本動作である動きや基本的なパス、レシーブを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バレーボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	14
ソフトボール(女子) 【知識及び技能】 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備によって攻防ができるよう基本的な技能を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・ソフトボールの基本動作である送球や捕球、バット操作が身につけられるようにスモールステップでそれぞれの技能を指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 安定したバット操作と走塁での香華w気、ボール操作と連携した守備によって攻防を行うことができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ソフトボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	
水泳 【知識及び技能】 各泳法について、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く、速く効率的に泳ぐことができるよう指導する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した課題解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的・主体的に取り組むとともに、水泳の心へを守りう安全に気を配ることができるようにする。	・各泳法について、フォームやそれぞれに合ったペースなどを習得し、記録に挑戦することの楽しさが実感できるよう指導する。 ・パディとの対話を通し、自他の課題を把握し、練習を工夫するなどの思考判断の場を設定して、指導に当たる。 ・状況に応じて、タブレット端末を活用し、自身の動きを客観的に認識することができるような場を設定する。	【知識・技能】 各泳法について、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く、速く、効率よく泳ぐことができる。 【思考・判断・表現】 自他の課題を発見し、効果的な練習や課題解決の方法を選び、実践することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳の学習に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全に気を配りながら学習することができる。	○	○	○	18
サッカー(男子) 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・サッカーの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 サッカーの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	14
バドミントン 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作、用具の操作や仲間と積極的に関わり、ネット際の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バドミントンの基本的な動きやラケットの基本動作を習得し、ラリーや攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・ペアによる話し合いを通して、練習やゲームを行い、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・状況に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。	【知識・技能】 攻防を展開するための安定したシャトル・ラケット操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バドミントンの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	

2 学 期	柔道（男子） 【知識及び技能】 相手の動きに応じた基本的な動作や技、連絡技を用いて、相手を投げたり抑えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他の課題を発見し、合理的な課題解決に向けて、練習を工夫したり、自己の考えたことを他者に伝えることができる力を身につけさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 武道に自主的、主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方などの礼節を大切にする力を身につけさせる。	・柔道における受け身や基本的な寝技、投げ技を習得できるように指導するとともに、安全面の確保を徹底する。 ・ペアでの対話を通し、練習、組み合いを工夫しておこなうことができる場を設定する。 ・必要に応じてタブレット端末を活用し、自己や仲間の技能を客観的に把握できるようにする。	【知識・技能】 柔道における受け身や基本的な寝技・投げ技を習得しているとともに、安全な運動の仕方を理解している。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習を選び、練習の方法を工夫し仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 柔道の学習に自主的、主体的に取り組むとともに、相手を尊重し伝統的な行動の仕方などの礼節を大切にしようとしている。	○	○	○	13
	バスケットボール（女子） 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バスケットボールの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	
	バドミントン（男子） 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作、用具の操作や仲間と積極的に関わり、ネット際の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バドミントンの基本的な動きやラケットの基本動作を習得し、ラリーや攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・ペアによる話し合いを通して、練習やゲームを行い、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・状況に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。	【知識・技能】 攻防を展開するための安定したシャトル・ラケット操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バドミントンの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	12
	サッカー（女子） 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・サッカーの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 サッカーの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	
3 学 期	バスケットボール 【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。	・バスケットボールの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。 ・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。 ・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。	【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。	○	○	○	

高等学校 令和7年度（1学年用）教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教科： 芸術 科目： 音楽Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当： （1～7組：高倉）

使用教科書： （MOUSA1）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するやめの技能を身に付けるようにす

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな感情を培う。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構成や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 時 数
			歌	器	創					
1 学 期	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう 【知識及び技能】曲想と音楽の構成や歌詞との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、構成などを知覚し、それらの動きを感じながらどのように歌うかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想と音楽の構成や歌詞との関わりに関心を持ち、歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに曲想と音楽の構成や歌詞とのかかわりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。 ・校歌、Ave Maria、 ・o sole mio、小さな空 ・Voice Training ・ソルフエージュ（長調の音階を学ぶ）	○		○	【知識・技能】曲想と音楽の構成や歌詞との関わりについて理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながらどのように歌うかについて表現意図を持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構成や歌詞との関わりに関心を持ち、歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○		○	10
	様々なアンサンブルに挑戦しよう 【知識及び技能】創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な演奏方法や技能を身に付け楽器で表している。 【思考力、判断力、表現力等】リズム、速度、強弱などを知覚しどのように演奏するかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】他者との調和を意識して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	・ボディーパーカッションや身近にあるコップ、ミュージックペルなどを用いたアンサンブルを通して音色や奏法、表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう ・Plymouth Rock ・Clap, Tap with CUPS! ・星に願いを ・海の見える街 ・ソルフエージュ（長調の音階を学ぶ）	○		○	【知識・技能】曲想と音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体を使いなどの技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚しそれらの動きを甘受しながらどのように演奏するかについて表現意図をもっている。曲想と音楽のとの関わりに関心を持ち、主体的に学習に取り組む 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と手拍子や足踏み、コップや机などを打つ音色や奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに関心を持ち主体的・協働的に取り組もうとしている。	○		○	6
	J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう 【知識及び技能】音楽の特徴と文化的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度などを知覚しどのように演奏するかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】音色、リズム、強弱などを知覚しどのように演奏するかについて表現意図を持っている。	J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構成や歌詞、文化的背景との関わりを理解し、イメージを持って歌うとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える。 ・Lemon、翼をください、負けないで ・ルールを守って音楽を楽しもう！ ・歌謡曲からJ-POPへの100年 ・ソルフエージュ	○		○	【知識・技能】曲想と音楽の構成や歌詞、文化的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚、感受したこととの関わりについて考える 【主体的に学習に取り組む態度】音楽の特徴と文化的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	○		○	6
	日本や海外の歌曲に親しみ、表現を工夫して歌唱しよう 【知識及び技能】曲想と音楽の構成や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、強弱を知覚しどのように歌うかについて表現意図を持っている 【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、音楽の発音、身体を使い方などの技能を身に付け表現を工夫して歌唱する。 ・むこうむこう ・Garo mio ben ・Heidemroslein ・ソルフエージュ（和声的短音階を学ぶ）	○		○	【知識・技能】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な発声、音楽の発音、身体を使いなどの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏する。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構成や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○		○	6

[illegible]

合計

78

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教 科： 芸術 科 目： 書道 I 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 6 組～ 8 組

教科担当者：（6組：藤田由起 ）（7組：藤田由起 ）（8組：藤田由起 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 書I 教育図書 ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を想像していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができる。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢 仮	漢 仮						
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 用具用材の特徴や表現効果としての関わりを理解する 目的や用途に即した効果的な表現などを身につける 【思考力、判断力、表現力等】 中学書写で学んだ表現形式などや、意図に基づいた表現について構想し工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現活動に主体的に取り組む	○書へのいざない ・姿勢や執筆法、基本用筆など書の基本を身に付け、用具用材の種類、名称、製法、扱い方などについて学ぶ ・中学校までの書写の学習を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する ・漢字の書体の変遷と仮名の誕生について理解する	○		○	【知識及び技能】・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している 【思考力、判断力、表現力】・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている 【学びに向かう力、人間性】・主体的に幅広い表現と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
	B 単元 【知識及び技能】 楷書の古典の書体や書風と用筆運筆との関わりについて理解し、楷書の古典に基づく基本的な用筆運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆運筆、字形、全体の構成について構想し工夫し、楷書の良さや美しさを味わい捉える 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づき、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む 楷書のよさや美しさなどを考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組む	○漢字の書 楷書 ・楷書の特徴を理解し、楷書古典の書風の相違を感じ得する ・唐の四大家等の作品（孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑）等の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ		○	○	【知識及び技能】・楷書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表している 【思考力、判断力、表現力】・楷書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫している 【学びに向かう力、人間性】・漢字の書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている	○	○	○	16
	B 単元 【知識及び技能】 行書の古典に基づく基本的な用筆運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 行書の古典の書体や書風に即した用筆運筆、字形、全体の構成について構想し工夫し、行書の良さや美しさを味わい捉える 【学びに向かう力、人間性等】 行書の表現の特質に基づき、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む 行書のよさや美しさなどを考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組む	○漢字の書 行書 ・行書の特徴を理解し、行書古典の書風の相違を感じ得する ・王羲之の書の尊重と影響について知る ・集王聖教序や蘭亭序などの鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ	○		○	【知識及び技能】・行書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表している 【思考力、判断力、表現力】・行書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫している 【学びに向かう力、人間性】・漢字の書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている	○	○	○	6

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅰ

教科： 芸術 科目： 美術Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年1、2、3、4、5、8 組

教科担当者： 百田智行

使用教科書： 美術Ⅰ 日本文教出版

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるよう

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情

科目 美術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	A オリエンテーション ・美術の学びの意味や広がりについて考える ・すべての表現活動は観察することから始まることを知る ・能動的な授業参加を心がける	年間授業計画から見通しを持つ。中学の既習事項を確認する ・現在の自分について（自己紹介にかえて文章と絵で）表現してみる 次回の準備 ◇鑑賞：参考映像を視聴する ◎教材：コピー用紙、鉛筆	○			○	・美術の意味や広がりについて考えることができたか ・よく課題を理解して観察して描くことができたかグラデーション ・現在の自分について表現できたか ・学習の見通しを持とうとしたか ・積極的に授業参加しようとしたか ◎自己についてレポートを提出（各自）	○	○	○	4
	B デッサン①（立体を描く） ○デッサンの意味を知る。 「光・影・形」の描き方を習得する ・鉛筆のシンプルな表現を知る ・デッサンの技法を習得しようとする	・人物クロッキー（毎週給業時）。骨格の構造を感じ取りを描く ・グラデーションの練習をする ◇鑑賞：参考画像を見る ◎教材：スケッチブック、鉛筆	○			○	・デッサンの意味、基礎が理解できたか ・グラデーションが制作できたか ・鉛筆のシンプルな表現ができたか ・情報の視覚化に取り組もうとしたか ・デッサンの技法を習得しようとしたか ◎グラデーション作品を提出（各自）	○	○	○	6
	C デッサン②（立体を描く） ○デッサンの基礎「光・影・形」の描き方を習得する ・立体を二次元表現する方法を知る ・描写を通じて対象を「発見」する ・デッサンの技法を習得しようとする ・ライティングを学ぶ	・質、量、動きを観察する ・光の方向と影の形を理解する ・幾何形体の石膏を描き分ける ◇鑑賞：参考画像、映像を見る ◎教材：スケッチブック、鉛筆 消しゴム、石膏	○		○	○	【知識及び技能】 ・立体を二次元表現する方法が理解できたか ・描写を通じて対象を「発見」できたか ・デッサンの技法を習得しようとしたか ○□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか	○	○	○	6
	○デザイン役、意味を知る ・色彩学を学ぶ ・デザインとは何か自分の言葉で語れる ・色彩学の実践をする	・基本的な構成を学習する。画面の色や形のバランスを考える ◇鑑賞：参考画像を見る ◎教材：スケッチブック、鉛筆、色鉛筆、定規			○	○	・色彩学を理解したか ・形と色によるバランスの良い構成ができたか ・デザインの役割、意味を理解できたか ○□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか	○	○	○	6
	E デザイン・形と色による構成② ○デザインの基礎を学ぶ ・作品の制作にテーマを持たせる ・色と形による平面構成の作品の制作 ・平面をデザインする	・平面構成の作品の制作をする ・色彩学の実践 ・効果的な色の配置を工夫する ・テーマを考えて見る ◇鑑賞：参考映像を視聴する ◎教材：スケッチブック、鉛筆、色鉛筆、定規			○	○	・色彩学を考えて意図的に実践、表現できたか ・作品のテーマは表現できているか ・映像表現の可能性を追求しようとしたか ○□□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか ◎デザイン・平面構成作品を提出（各自） ◎鑑賞レポート提出	○	○	○	6
2 学 期	F 静物画の制作 ・絵画の基本構図を知る ・絵画の様々の表現を知る ・絵画表現の歴史を知る ・画材の使い方を学ぶ	・平面作品の構成を静物画から学ぶ ・構図、構成について考える ・色のバランス、対比を考える ◇鑑賞：参考映像を視聴する ◎教材：スケッチブック、鉛筆、水彩	○			○	・絵画作品の構成を理解できたか ・構成を考えた構図で表現ができたか ・画材の使い方を習得できたか ◎静物画の提出（各自） ◎鑑賞レポート提出	○	○	○	8
	G 透視図法による風景画の制作 ○透視図法の理解し実践する ・絵画制作の方法を理解する ・色鉛筆で着色をしてみる ・制作方法の違いから新しい価値観を創造しようとする	・絵画の制作に、図法を取り入れ方方法の違いから新しい制作価値観をみいだす。 ・透視図法の練習 ◎教材：スケッチブック、グラフィック、端末、鉛筆、色鉛筆、定規	○	○		○	・図法の理解と実践はできたか ・絵の具を適切に使用し表現できたか ・新しい価値観を創造できたか ○□□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか ◎風景画を提出（各自）	○	○	○	10
	H コラージュ作品の制作 ○コラージュの歴史を知る ・西洋美術と日本美術について学ぶ ・作品の発想方法を知る ・完成度高める意識を持つ	・西洋と日本の美術の関連が理解する ・作品制作の発想方法を理解する ・計画的に資料、素材収集をする ◎教材：スケッチブック、各種素材、グラフィック、鉛筆、色鉛筆	○	○		○	・西洋と日本の美術の関連が理解できたか ・作品制作の発想方法を理解できたか ・計画的に資料、素材収集ができたか ○□□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか ◎コラージュ作品の提出（各自）	○	○	○	10
	I 抽象画の制作 ○抽象画の意味 ・美術の歴史的な作品から学ぶ ・抽象と具象について考えてみる ・表現の違いから新しい価値観を創造しようとする	・短なものからモチーフを探す ・感じ取った心情を視覚化する ・美術の歴史的な作品から方法を学ぶ ◇鑑賞：抽象絵画の歴史 ◎教材：スケッチブック、鉛筆、色鉛筆、水彩絵の具	○	○		○	・抽象画の意味が理解できたか ・美術の歴史的な作品から方法を学べたか ・完成度についての意識を持とうとしたか ○□□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか ◎抽象画下絵、完成作品の提出（各自）	○	○	○	8
	J メディアアートと日本の古典芸能 ○身近な問題や社会性、現代社会のこと環境問題等表現のテーマを考える ・日本の美意識を大切にしようとする	・メディアの意味を知る ・メディアアートの特徴を学習する ◇鑑賞：日本文化と美意識 ◎教材：参考DVD	○			○	・現代美術の特徴を理解したか ・メディアアートを理解できたか ・日本の美意識を大切にしようとしたか ◎レポートと小作品の提出（各自）	○	○	○	8
3 学 期	K ポートフォリオの作成・美術1のまとめ①②	1年間のまとめとしてのスケッチブック・ポートフォリオの作成する 一冊の作品集、記録としてスケッチブックを整える ◎教材：スケッチブック	○			○	・描画材の特性を意図に応じて工夫したか ・手順を考えて見通しを持って表現したか ・心で捉えた光から主題を生み出そうとしたか ○□□能動的で計画性を持ち丁寧な作業が出来たか ◎自己評価を含めた授業の感想文の提出（各	○	○	○	6

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

教 科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅠ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： 嘉屋 高木 常見

使用教科書：（ HEARTENING ENGLISH COMMUNICATIONⅠ ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、意図を的確に理解し、それをもとに自らの考えを形成し、適切に表現できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標： 5つの領域における統合的な言語活動を通して、情報や考えを的確に理解し、自分の考えを表現したり伝えあう力を身につける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている。外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・論理的にコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	Lesson 1 Bringing Out the Best in himself 【知識及び技能】現在形、過去形、進行形、および未来表現の文の特徴やきまりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】八村選手のことを友人に伝えるために、わかりやすく整理して話す。 【主体的に学習に取り組む態度】	英語を学習しながらNBA選手になる夢を実現した八村塁選手の半生を描いた物語文。自主・自律の精神を養い、他者との協力を重んずる態度を養う。	○	○	○	○	○	【知識及び技能】現在形、過去形、進行形、および未来表現の文の特徴やきまりを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】八村選手のことを友人に伝えるために、わかりやすく整理して話している。 【主体的に学習に取り組む態度】八村選手についての記事を読んで概要を捉えようとしている。	○	○	○	10
	Lesson 2 Hold On, Anzu! 【知識及び技能】現在完了形、現在完了進行形、および過去完了形、過去完了進行形の文の特徴やきまりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】アンズの話をテレビの視聴者に伝えるために、わかりやすく整理して話す。 【学びに向かう力、人間性等】テレビのレポートを読んで概要を捉えようとする	捨てられた小型犬が警察犬として活躍するまでを述べた物語文。個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす精神を培い、生命を尊ぶ態度を養う。	○	○	○	○	○	【知識及び技能】現在完了形、現在完了進行形、および過去完了形、過去完了進行形の文の特徴やきまりを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】アンズの話をテレビの視聴者に伝えるために、わかりやすく整理して話している。 【学びに向かう力、人間性等】テレビのレポートを読んで概要を捉えようとしている。	○	○	○	10
	定期考査								○	○		1
	Lesson 3 We Can Make a Difference 【知識及び技能】助動詞および助動詞の過去形の文の特徴やきまりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】世界各地の気候変動による影響をクラスで伝えるために、わかりやすく整理して話す。 【学びに向かう力、人間性等】気候変動が及ぼす影響に関する投稿文を読んで、問題点や意見を捉えようとする。	世界の人々が受けている気候変動の影響と、問題への取り組みについて述べた説明文・意見文。自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	○	○	○	○	○	【知識及び技能】助動詞および助動詞の過去形の文の特徴やきまりを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】世界各地の気候変動による影響をクラスで伝えるために、わかりやすく整理して話している。 【学びに向かう力、人間性等】気候変動が及ぼす影響に関する投稿文を読んで、問題点や意見を捉えようとしている。	○	○	○	10
	Lesson 4 Creative Problem Solving 【知識及び技能】さまざまな受動態および前置詞の文の特徴やきまりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ボイ捨てを減らす効果的な方法をわかりやすく整理して話す。 【学びに向かう力、人間性等】ボイ捨て削減に関する論証文を読んで、概要やメッセージを捉えようとする。	人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にボイ捨てをなくす方法を述べた論証文。公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う。						【知識及び技能】さまざまな受動態および前置詞の文の特徴やきまりを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】ボイ捨てを減らす効果的な方法をわかりやすく整理して話している。 【学びに向かう力、人間性等】ボイ捨て削減に関する論証文を読んで、概要やメッセージを捉えようとしている。				10
	定期考査								○	○		1

[illegible]

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現 I

教科：外国語

科目：論理・表現Ⅰ

单位数： 2 单位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：高木、問谷、高橋、嘉屋

使用教科書：（ EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced ）

教科 外国語

の目標：

【知 識 及 び 技 能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、意図を的確に理解し、それをもとに自らの考えを形成し、適切に表現できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。

科目 論理・表現 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身につけ、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。	場所・目的・状況などに応じて、幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・論理的にコミュニケーションを図ろうとしている。

[illegible]

高等学校 令和7年度（1 学年用）教科 情報 科目 情報 I

教 科： 情報 科 目： 情報 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8 組：秋山 紗綾香）

使用教科書：（ 実教出版 高校情報 I Python ）

教科 情報 の目標：

【知 識 及 び 技 能】情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関りについての理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報との結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関りについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	情報と情報社会 【知識及び技能】 情報の特徴（残存性、複製性、伝搬性）について、意味を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 データと情報の違いについて理解し、事例をあげて説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 情報の定義と分類について学ぶ。	・指導事項 単元の具体的な指導目標に沿った内容で指導する。 ・教材 プリント、参考データ ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 情報の特徴（残存性、複製性、伝搬性）について、意味を理解している。 【思考・判断・表現】 データと情報の違いについて理解し、事例をあげて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報の定義について興味・関心を示している。	○	○	○	1
	問題解決の考え方 【知識及び技能】 問題解決の手順について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 問題解決の考え方について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している。 【思考・判断・表現】 問題解決の手順について具体的な例を挙げて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		2
	定期考査						
	法規による安全対策 【知識及び技能】 情報セキュリティについて学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 情報漏洩とその対策について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 法規による安全対策について学ぶ。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 情報セキュリティ技術に興味・関心をもって取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 個人情報漏洩の例について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 法規による安全対策の重要性に興味・関心をもって取り組んでいる。	○	○	○	2
	コミュニケーションとメディア 【知識及び技能】 メディアリテラシーについて学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションとメディアについて学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 コミュニケーションの形態の分類や手段の特性について学ぶ。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性について理解している。 【思考・判断・表現】 伝播メディアや成果メディアについて理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 コミュニケーションにおける同期・非同期、直接・間接を適切に分類できる。	○	○	○	2
	実習 EXCEL 【知識及び技能】 EXCELについて学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 EXCELの実践問題を解く。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	2
	定期考査						1
	デジタル情報の特徴 【知識及び技能】 情報量について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 AD変換、DA変換について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 表現できる情報の数およびその単位について理解している。 【思考・判断・表現】 AD変換の際の誤差について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		2
	数値と文字の表現 【知識及び技能】 数値の表現について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 文字の表現について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 2進数、10進数、16進数をそれぞれ相互に変換する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 コンピュータにおける文字表現である文字コードの特徴について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		3

2 学 期	演算の仕組み 【知識及び技能】 2進数で表された数値の計算について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 加算器について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 2進数の簡単な加算と減算について理解している。 【思考・判断・表現】 半加算器を組み合わせることで全加算器が実現できることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		2
	音の表現 【知識及び技能】 音のデジタル化のしくみについて学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 標本化周波数と量子化の関係について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 標本化定理について学ぶ。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 音やデジタル化（標本化、量子化、符号化）の仕組みについて理解している。 【思考・判断・表現】 標本化周期や標本化周波数を音質とデータ量に関連付けて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 もとのアナログ波形に戻すために必要な標本化周波数について説明できる。	○	○		2
	定期考査						0
	画像の表現 【知識及び技能】 光の三原色・色の三原色・解像度・階調について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 画像のデジタル化のしくみについて学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ラスタ形式とベクタ形式の違いについて学ぶ。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 加法混色、減法混色、解像度、階調について理解している。 【思考・判断・表現】 画像のデジタル化（標本化、量子化、符号化）について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ペイント系やドロー系のソフトウェアを使った実習に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	2
	コンピュータの構成と動作 【知識及び技能】 オペレーティングシステムの機能について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 コンピュータ内部の動作について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについて学ぶ。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 キャッシュメモリを使用した場合のアクセス時間を計算することができる。 【思考・判断・表現】 仮想プログラミング言語を使って計算の仕組みを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ハードウェアとソフトウェアの関係を理解している。	○	○	○	2
	実習 HTML 【知識及び技能】 HTMLのしくみについて学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 HTMLを使った情報発信について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 HTMLの仕組みについて理解している。 【思考・判断・表現】 情報モラルについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○		2
	定期考査						1

